

症 例 : 20歳、男性(脳底型片頭痛 basilar migraine)

主 訴 : 後頭部拍動痛、構音障害、右不全麻痺

家族歴 : 母親に片頭痛を認める

現病歴 : 10歳頃から後頭部に拍動性頭痛有り、治療歴なし。
1999年10月2日深夜、左後頭部に拍動性頭痛出現。
翌夕から構音障害、右不全麻痺出現、救急外来受診。
直後から、眼球運動障害、構音障害、四肢麻痺出現。

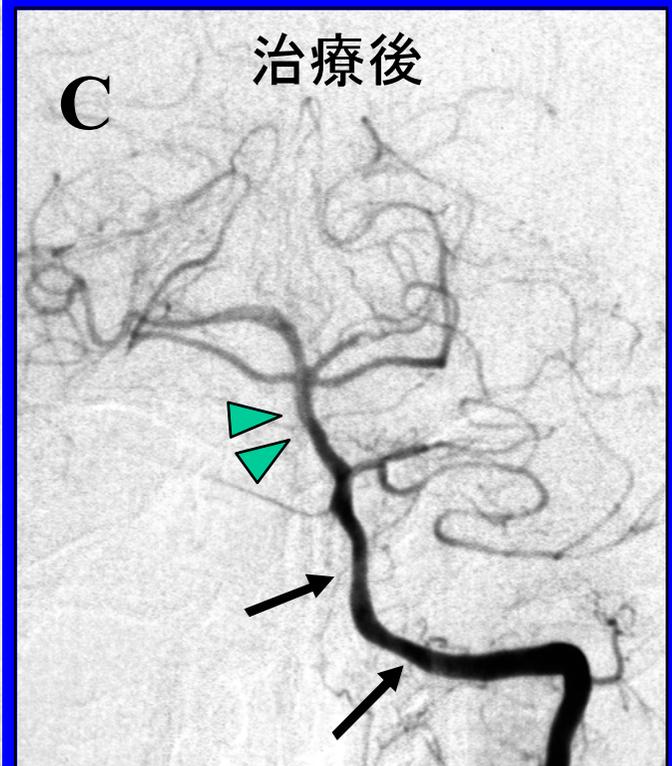
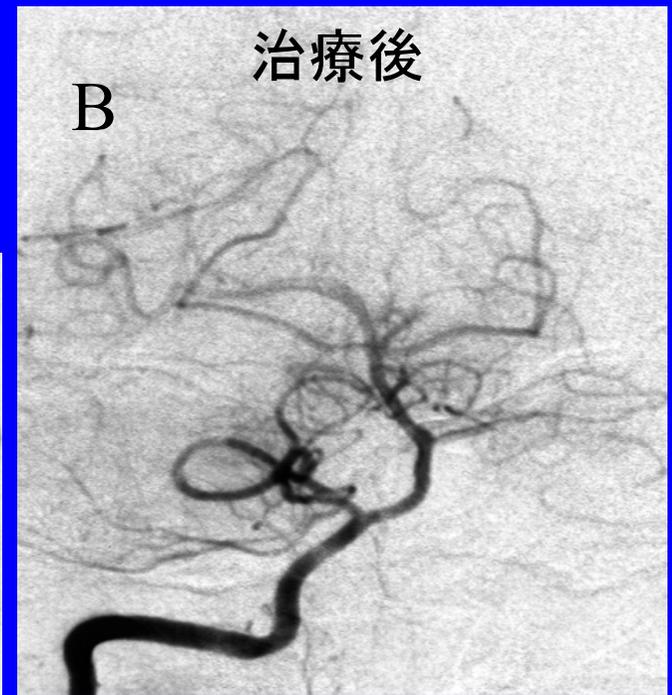
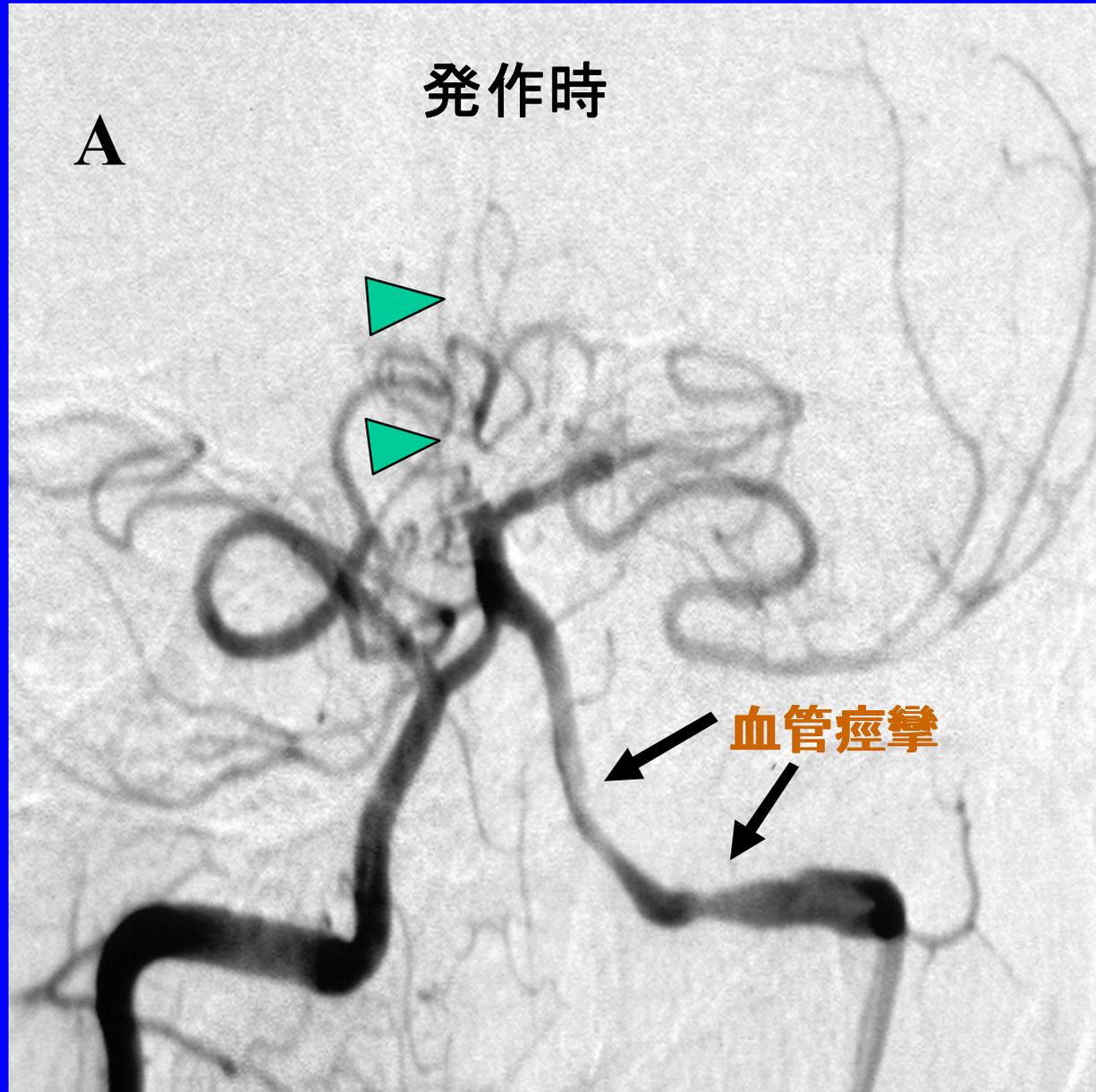
理学所見 : 心、肺、腹部に異常なし

神経学的に、意識は混濁、両側方注視障害、開口障害、
挺舌不良、右優位の四肢麻痺、両下肢の深部腱反射亢
進と Babinsky 徴候陽性

検査所見 : 検血、髄液検査、CT検査ともに正常、炎症反応 ; 陰性
緊急脳血管写 ; 脳底動脈閉塞、左椎骨動脈の血管痙攣。

血管痙攣と脳底型片頭痛

脳血管造影



「4」 血管性疾患の頭痛

- (1) 高血圧 (2) 側頭動脈炎 (3) 椎骨動脈系の血流障害

「5」 薬物関連の頭痛

- (1) **血管拡張剤** (降圧剤、冠拡張剤、血小板凝集阻害剤など)
- (2) 非ステロイド性抗炎症剤による**無菌性髄膜炎**
- (3) **薬剤反跳性頭痛** (エルゴタミンによる疼痛制御機序破壊、アスピリンなどの鎮痛薬の乱用・**習慣性**による血管拡張)
:頭痛は連日、前頭部・びまん性、服用中止で頭痛増悪、目覚めた時に痛みがある

「6」 神経痛

- (1) 三叉神経、大後頭神経 (**圧痛点**有り:数十秒から数分の疼痛)
- (2) 消炎鎮痛剤、テグレトールなどの抗てんかん剤

放置すべきでない頭痛

症例(今までにない強い頭痛、くも膜下出血)

患者: 46歳、女性

主訴: 頭痛と一過性の意識障害

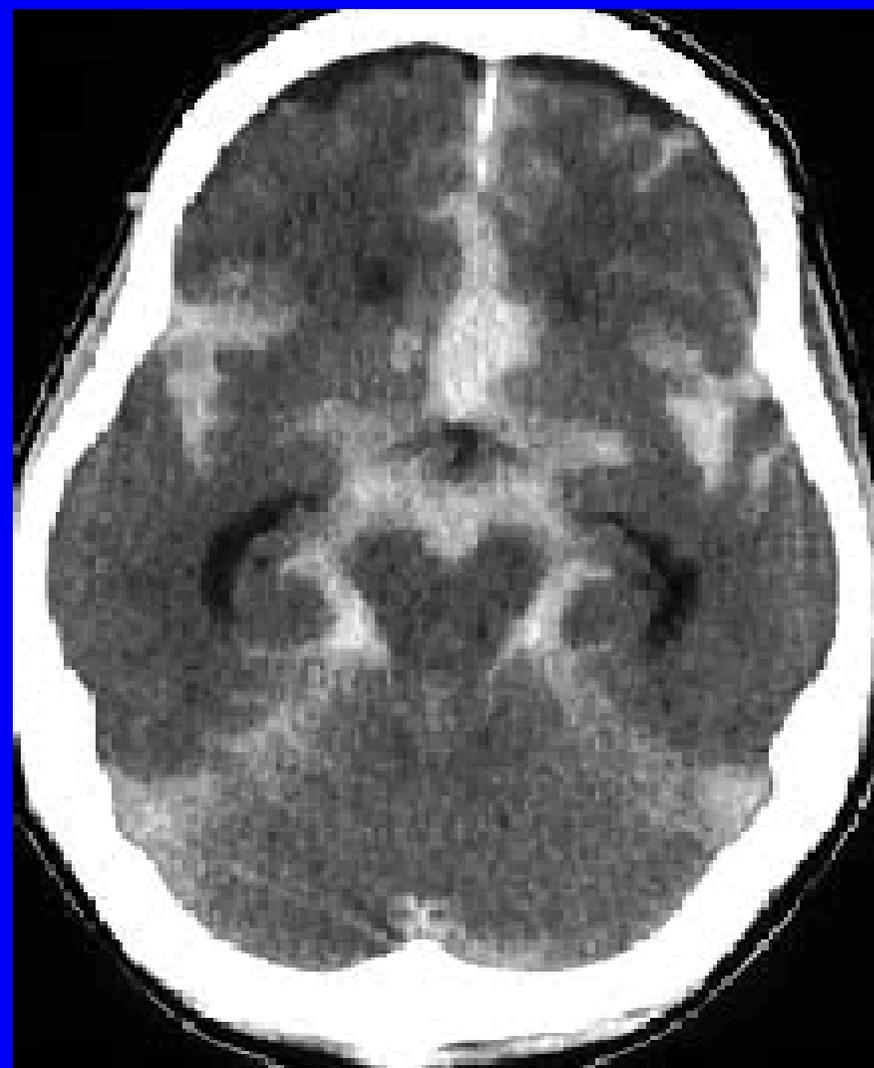
既往歴: 特になし

現病歴: 2004年5月5日連休を利用して家族で湖に旅行し、湖畔で知人と会話中突然**金槌で頭を殴られたような頭痛**と共に意識をなくした。意識は1分程で回復したが頭痛が持続したためすぐ帰宅した。翌日には頭痛は軽い鈍痛になったが心配で病院を受診した。

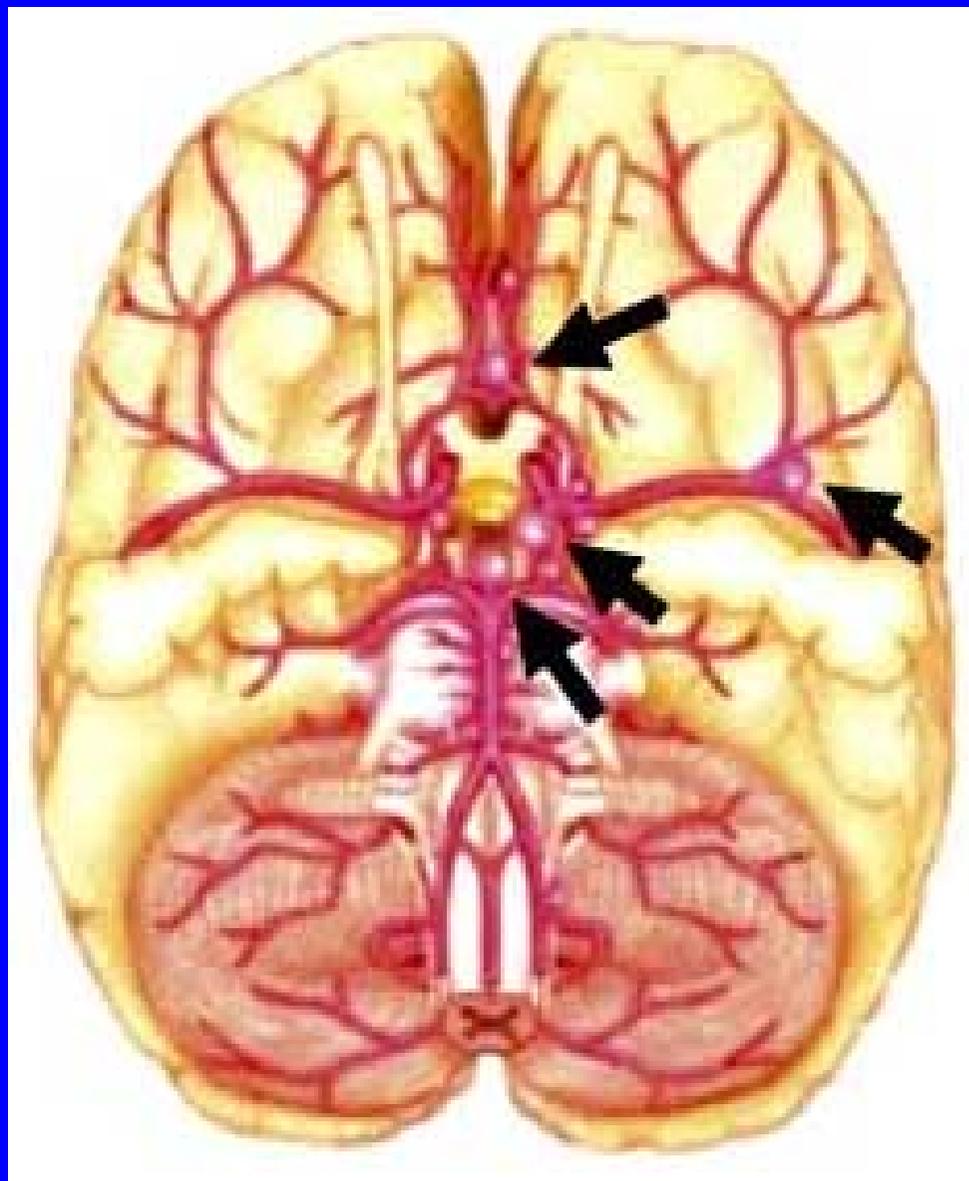
理学所見: 一般理学所見に異常はなく、神経学的所見でも軽度頸部硬直が認められるのみで、他に所見はなかった

血液検査: 炎症反応陰性、その他検査正常

〈も膜下出血、脳動脈瘤



脳動脈瘤は脳底部の動脈の分岐部に
できる、破裂時に激痛を訴える



症例(神経症状を示す頭痛、脳出血)

患者: 51歳、男性

主訴: 左上下肢の運動不全と脱力

既往歴: 特になし

現病歴: 2000年10月頃から時々後頭部の**頭重感**と**肩凝り**が出現。近医を受診し血圧が 170/112mmHgであることを指摘され、食事療法を指導され帰宅した。時々頭痛があったが強くはなく放置していた。2002年1月仕事中に突然**右半身の運動障害**が出現し、病院を受診した。

理学所見: 軽度傾眠傾向、右半側の不全麻痺、運動失調と感覚障害を認め、血圧は230/120mmHgであった。

血液検査: 炎症反応陰性、その他検査正常